

(1)学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
組織能力の向上	<p>中長期的な重点取組の1 「部活動・資格取得等に積極的にチャレンジすることで、基礎学力・基本的な生活習慣・コミュニケーション能力・体力を向上させ、生徒一人ひとりの進路実現を図る。」</p> <p>(1)学年・分掌との情報共有・連携を深め、共通理解のもと組織的対応ができるよう努める。</p> <p>(2)生徒の実態に即した授業改善を目指し、「なかみ」の指導を充実させる。</p>	<p>(1)生徒の活躍の様子等を紹介する校内通信「あけぼのニュース」を発行して情報共有の場をつくり、学年・分掌との共通理解のもと組織対応できるよう努めた。また、その内容を活用し、本校HPの更新回数増につなげた。</p> <p>(2)授業公開週間を5月と10月の年2回設けて保護者や中学校教員、地域関係者が参観。また、大学教員を招聘して授業研究に係る研修会を2回実施。他にも4名の教職員が1月下旬に県外3つの高校の学校視察を行った。</p>	<p>(1)「目指す学校像」の実現に向けて組織能力の向上を図るうえで、いかに①一つ一つの教育活動と「目指す学校像」との間で実践意図の一貫性を持たせるかということと、②全校的なものにしていくかが今後の課題である。</p> <p>(2)授業公開週間等の機会を有効活用して参観者の声を反映して授業改善につなげていくことが課題である。また「なかみ」の指導の充実を図るうえでは教職員のより活発な意見交換が必要である。</p>
地域との連携	<p>中長期的な重点取組の2 「学年通信・学校通信・マスメディア等による情報発信を積極的に行い、地域のニーズを正確に把握した活動に取り組むことで、学校の活性化や地域貢献につなげる。」</p> <p>(1)地域住民に本校の教育活動等をより良く知っていただき、地域との交流を推進し、地域から学ぶことで生徒の達成感・やりがい感・自尊感情の向上に努める。</p>	<p>(1)学校通信を3回発行。また、地域交流やボランティア活動等の取組は回数、参加生徒数ともに大幅に増えた。「地域住民アンケート」の結果、地域のニーズを把握した教育活動に関する学校経営数値は過去最高となった。マスメディア等による情報発信を積極的に行い、新聞各社報道(延べ)は65回を数えた。地域との交流を推進するとともに、生徒の自尊感情向上の一助となった。</p>	<p>(1)地域との交流は年々進んでおり、学校理解は高まっている。今後も引き続き積極的な情報発信に努めるとともに、地域と交流し、地域から学ぶことで生徒が成長し、学校の活性化や地域貢献につなげていくことが大切である。本校の4系列それぞれの内容・特色を生かしたさらなる地域との連携・交流の在り方が課題である。</p>
仕事環境の整備	<p>中長期的な重点取組の3 「学校行事・会議・部活動等の精選・見直しを行うことで総勤務時間の削減を図り、教職員が元気にいきいきと職務を遂行することができるよう努める。」</p> <p>(1)教職員が生徒と向き合える時間や部活動の指導時間の確保のため、業務の効率化を図る。</p> <p>(2)教職員のワーク・ライフ・バランスを推進する。</p>	<p>(1)各種委員会等で検討するなどして、学校行事・会議・部活動等の精選・見直しを図った。また、議題を精選して運営委員会や職員会議の回数を当初年度計画よりも減じた。</p> <p>(2)7月と1月に開催した学校安全衛生委員会で産業医から助言を得ながら、健康管理の大切さを教職員に周知徹底し、年休やその他の休暇をより多く取得するよう呼びかけた。</p>	<p>(1)学校課題を検討し「総花的」ではなく、どこに力点を置くかという話し合いを持つことで業務の効率化を図る必要がある。</p> <p>(2)総勤務時間の削減を図るには、今後の本校の目指す姿を議論し、大胆なスクラップ&ビルドも含めての検討が必要となってくる。</p>

(2) 組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強み	<ul style="list-style-type: none">・登校指導、集会指導、イエローカードを用いた授業規律の確立等、教職員が同じベクトルで取り組んでいる。・情報発信を積極的に行うことで、地域住民・保護者の学校理解が進んでいる。・近年は入学志願者が定員を上回り、生徒や教職員の自信や誇りにつながっている。・きめ細かな指導や習熟度別少人数講座、その他多くの講座などを設定し、生徒の実情や要望に見合った授業を提供している。・教職員が生徒と徹底して関わり、仲間づくりと人権意識の醸成に力を入れている。・生徒のために学校をよりよくしようという教職員の姿勢はアンケート結果の「学校経営に参画している」という意識の高さにも表れている。
弱み	<ul style="list-style-type: none">・教職員の在職期間が短く、入れ替わりが激しいことから、着任者が学校に慣れるまでに時間が費やされ、長期的な視点での取組が難しい。・中間・年度末評価のアセスメントが十分に実施できていないため、業務の精選・効率化が図りにくく、新しい活動に結びつかない。・本校生徒の実態に即した研修等、教職員の切実な要望に応じた研修を企画しきれず、また研修に参加する時間的な余裕も少ない。・分掌間や学年間での情報共有がまだまだ不足している。教職員の意見を吸い上げ、改善に資するシステムが必要である。・地元小中学校との交流や地域連携は進んでいるが、今後も継続して実施するための組織づくりや実施計画づくりが課題である。

(3) 学校関係者評価委員会の実施状況

学校関係者評価委員会の実施内容等	
＜実施回数＞ 3 回	
実施内容	<ul style="list-style-type: none">・学校関係者評価委員5名、校長、教頭、事務長、教務主任、生徒指導主事、進路指導主事、人権教育担当の合計12名で構成。・第1回は主に前年度の学校評価の報告、新年度の「学校経営の改革方針」について説明し意見交流。・第2回は各学年・分掌の中間評価と各種アンケート結果について報告・説明し意見交流。・第3回は各学年・分掌の年度末評価と各種アンケート結果について報告・説明し意見交流、次年度の改善課題について検討。

(4) 学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題	
関係者評価	<ul style="list-style-type: none">・生徒たちがすごく頑張っている様子が新聞や地域情報誌、ケーブルテレビ等で紹介されて大変嬉しく思う。継続して情報発信してもらいたい。・十分に指導してもらっていると思うが、昨今の状況からインターネット上でのトラブルに気をつけるように生徒に注意喚起してもらいたい。・「黒豆」の活動を地域の人たちと一緒にしたり「地域開放パソコン教室」で生徒たちが地域の人たちに教えたりしていて、すごく評判が良い。・たくさんの地域交流をしてもらっていることは大変良いこと。より多くの生徒が地域交流でいろいろな体験ができるとさらに良いと思う。・学校の評判は一人ひとりの先生の姿を通して広がっていくので、3クラス制で生徒に親身になってくれる先生たちの姿は大変良いと思う。

(5) 組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組

- ・学校通信の定期的な発行をはじめマスメディア等による情報発信を通して、地域住民・保護者に学校をよりいっそう知ってもらう機会をつくる。
- ・わかる授業による生徒の基礎学力向上を目指して授業公開や授業研究を推進して、学校組織全体の取組として授業改善を行っていく。
- ・小規模校のメリットを最大限に生かし、一人ひとりの生徒の情報を共有しながら、引き続き全教職員できめ細かな生徒指導に取り組んでいく。
- ・「産業社会と人間」「総合研究」「インターンシップ」を柱とするキャリア教育の系統的な構築を組織的に取り組んでいく。
- ・本校の4系列それぞれの内容・特色を生かしたさらなる地域との連携・交流を図っていく。
- ・生徒に対する指導時間の確保や、教職員の健康維持のため、会議の精選や組織の見直しを図り、業務の効率化に努める。